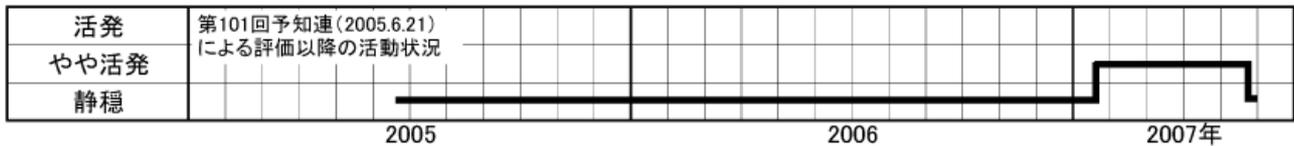


御 嶽 山

火山活動評価：静穏な状況（25日にやや活発な状況から引き下げ）

2007年1月以降やや活発な状況で推移してきましたが、最近では火山性地震および火山性微動の少ない状態が続き、御嶽山の地下の膨張を示す伸びの変化もほぼ停止した状態で経過するなど、火山活動は静穏な状況になりました。



最近の活動の推移

火山活動の状況

- ・噴気など表面現象の状況（図1、図2、図3、図4、図5、図6）

三岳黒沢の遠望カメラ（剣ヶ峰の南東約14kmに設置）では、山頂付近からごく少量の弱い噴気が時々観測されました。

29日に行なった現地調査で、79-7火口でごく小規模な噴火が発生したと考えられる火山灰を確認しました。火山灰は、噴気孔から北東方向約200mの範囲に分布していました。御嶽山は、1991年5月にも同程度のごく小規模な噴火をしています。

注) 噴火が発生した詳細な時期は不明ですが、火山灰の上に黄砂が重なっていたことと、岐阜、長野地方気象台及び松本測候所で、4月1～2日に黄砂が観測されていたことから、噴火時期を噴気量が増加した3月16日以降と仮定すると、3月後半に噴火が発生した可能性が考えられます。

- ・地震や微動の発生状況（図6、図7）

火山性地震は、昨年12月から消長を繰り返しながらやや多い状態が続いていましたが、4月中旬以降は少なくなっています。

火山性微動は6回発生しましたが、いずれも振幅の小さなものでした。

- ・地殻変動の状況（図6、図8）

GPS連続観測では、昨年12月から見られている御嶽山の地下の膨張を示すわずかな伸びの変化は、ほぼ停止した状態で経過しています。

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、名古屋大学、独立行政法人防災科学技術研究所、長野県及び岐阜県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000(行政界・海岸線)』『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平17総使、第503号)。



三岳黒沢遠望カメラによる(5月20日の映像)
(剣ヶ峰の南東約14kmに設置)

御岳山滝越カメラによる(5月23日の映像)
(剣ヶ峰の南西約7kmに設置)

図1 御嶽山 山麓のカメラで見た山頂部の状況



図2 御嶽山 79-7 火口の噴気の状況(5月29日撮影)



図3 御嶽山 79-7 火口付近の火山灰の状況（5月29日撮影）

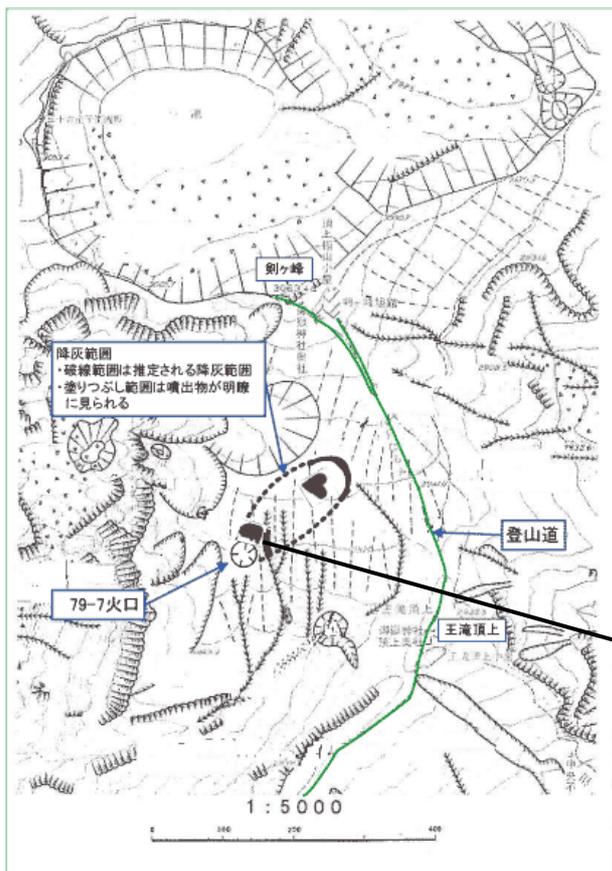


図4 2007年5月29日に確認された火山灰分布図および火山灰の写真（5月29日撮影）

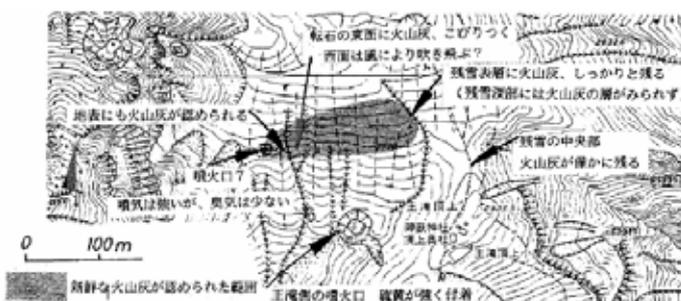


図5 1991年5月のごく小規模噴火時の降灰分布図（木股ら，1991）

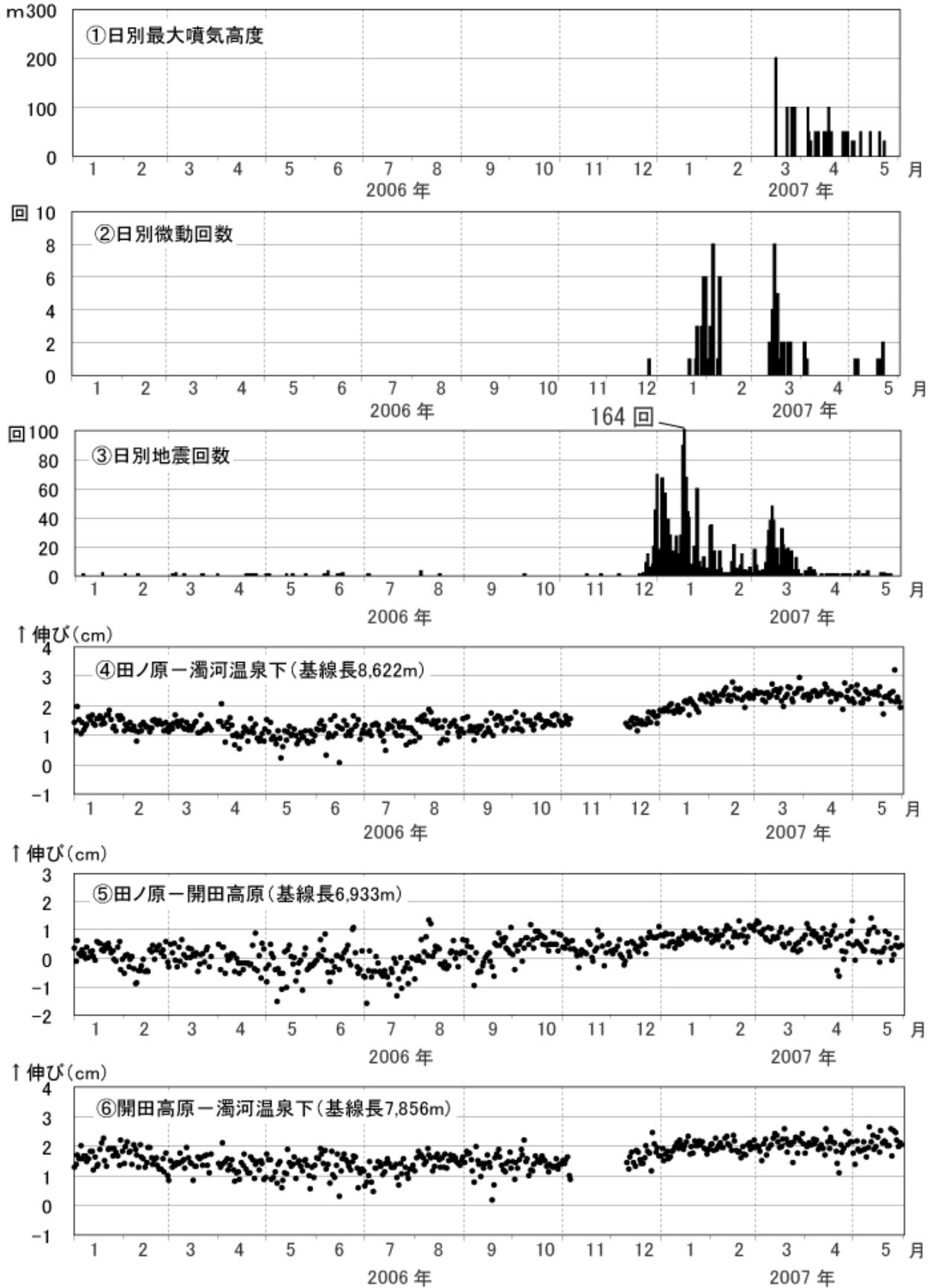


図6 御嶽山 最近の火山活動の推移（2006年1月1日～2007年5月31日）
 図中 ～ は図8のGPS基線 ～ に対応しています。

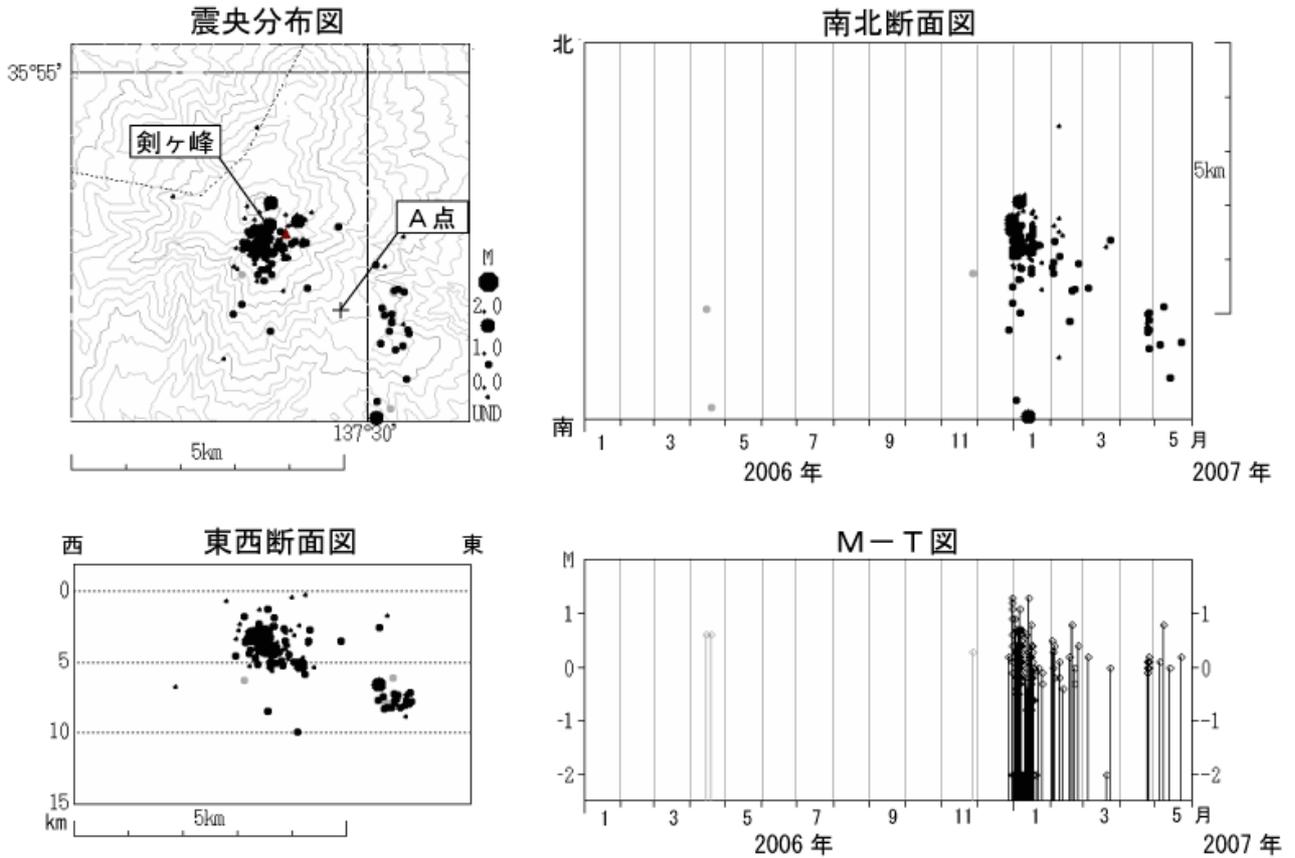


図7 御嶽山 山頂付近の地震活動（2006年1月1日～2007年5月31日）
 : 2006年12月1日～2007年5月31日 : 2006年1月1日～2006年11月30日
 M（マグニチュード）は地震の規模を表します。資料中のMは一部暫定値が含まれており、
 後日変更することがあります。+印は気象庁地震観測点（A点）の位置を示しています。

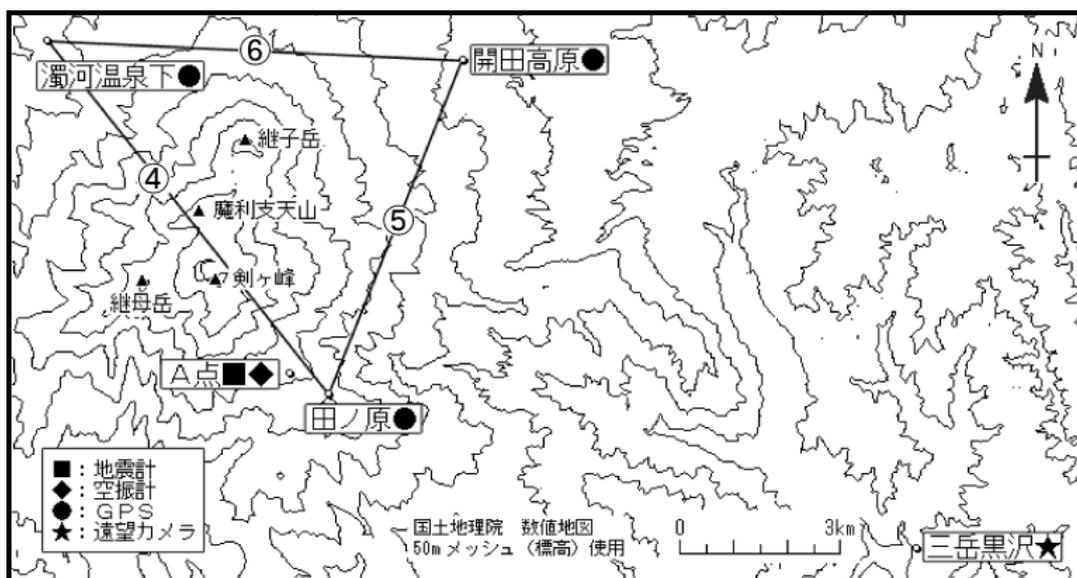


図8 御嶽山 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）
 図中のGPS基線 ~ は図6の ~ に対応しています。

火山情報の発表状況（2007 年 5 月）

火山情報名	発表日時	概要
火山観測情報第 21 号	5 月 8 日 16 時 00 分	4 月 27 日から 5 月 8 日 15 時までの活動状況。火山活動はやや活発な状況。
火山観測情報第 22 号	5 月 11 日 16 時 00 分	8 日から 11 日 15 時までの活動状況。火山活動はやや活発な状況
火山観測情報第 23 号	5 月 18 日 16 時 00 分	11 日から 18 日 15 時までの活動状況。火山活動はやや活発な状況。
火山観測情報第 24 号	5 月 25 日 14 時 00 分	最近は火山性地震および火山性微動の少ない状態が続き、御嶽山の地下の膨張を示す伸びの変化もほぼ停止した状態で経過していることから、火山活動の評価を静穏な状況に引き下げ。定期的な発表は本号をもって終了。